

2017（平成29）年度 大阪大学 文学部 入試問題 第1問 解答例

Ⅱ

問一

のんびりとした風格で目立ち、ユーモラスな気配と茫洋としたやさしさを感じさせる指導官のS少佐の、時として海軍における伝統を突出しそうな、虚無的な気配を放出させている様子に、学生である「私」はひょっとすると魅力を感じていたとも言うということ。

問二

「染みが広がるふうに」という比喻表現は、はじめはS少佐の言葉がよく理解できなかった「私」が、ほどなく海軍が特攻志願者を募っているという深刻な意味であると理解していくことを、汚点が徐々に拡大して目立っていく明瞭な印象によって具体的に想像させる効果がある。

問三

いずれは危険な魚雷艇の配置につくと分かっているのに早まって確実に死を免れない特攻に志願することはないという考えに、心の底で常に囚われているが、思い切って特攻に志願さえしてしまえば、迷う余地がなくなり、少しの間はその考えに囚われずにすむということ。

問四

「私」は、特攻への志願についてよく吟味して決めなければ取り返しのつかないことになるという焦燥感に駆られるが、動揺する自分の思考をどう整理してよいか分からず、孤独と他者への嫌悪をおぼえながら、結局は一枚の下着を洗濯しているだけの自分をみじめに思っている。